和漢繪入

奇異雜談集 四

へ13
3193
4

へ13
3193
4

森氏新宅蔵書

奇異雑談集巻第四

一 越後上面の産女の事
二 下総の国にて死人掘りあらはす事
三 箕根山大金の地蔵の事
四 産女乃出来の事

目録

五 國司の上人殺生の報乃事

六 宮原の西光房の三昧を思ひし事

七 三條東洞院の屋敷の鶴の ちなる事

八 江州下甲賀郡の牛の怪事

九 馬綱橋の河邊の事

火車、死人

奇異雜談集巻第四

一 越後上田の庄の雷雨の事

て死人をとり行事

あり。死人をとりていくもの。ちごれ出田の庄よりきたる。

雲霧屋とうしもとそ乃檀那屋敷の人死をそれ長光

りんぞうの葬礼をそよ山野よりとりとり。電雷こなの

ぐ。ちりて。人はとりぐ。大雨ふりこと。盆乃ち

をとりひくなかりこと。下火乃松明をもつて。ふんとりとり

時の墨垂一ひ。龕のうしよりとりて。龕の蓋を

て。死人をとりて。長光ゆきり。

とりて。死人の足よりとりて

あぐろ。長老をとらへ。ぐるぐるまきにして。光りものくらへ。死人ゆへ。長老ゆへ。乱人どもとけ。乱人どもとりて。龍ゆへ。ふるまひ。めんぐれ。面ものくなり。雷面。面くやくれ。長老乱面くうめくく。法弁ゆへ。大とうとなり。歩ます。ふうぬんくれる。長老乃ぐうん強情なり。ぬくりとも。面乃ぐうん寵人なりとも。ぬくべくと。法人ぐうん。そのぐうん。ぐうざん。ぐうざん。ぐうざ

二 下総の国にて死人棺にもるまく葬儀の仕様とはそこにひてみ棺に入れ土をもみごの事

同人くにもりていとく行脚乃僧一人下総乃国にわたるく。山家と行ふ。日もくれしよりれいぶ家ぬうちに人のなくこゑにて。家内やうぐうに人よ。山家より行くに一宿をこうる。家主僧に対ひ。びていとく。宿をとりて。

それ一の母や死去ぬ。他それ人僧をよび葬ぶ。ひいきぐ合ひに。僧らの母んあ。ぶんぐさせ。

一ぞ。主人家くんに。僧を内のことぐ。ぜん男人に入あるとりゆ人。僧ていとくのぐれ乃ま。家の

やくなりとて内に入る。死人とは一のまにとき。棺に。

いるぬとき。せいぐ。あるとりぶせ。ぞうこ。

主代とそこの。家主ていとくれ。明日出。

ちんらくよ。夜とあ。今朝ぜんそこ。体臭ぐ

。僧をは一のさに。法座ありて。棺を西ごに。

といひく。内乃ぞ。ぞ。ぞ。ぬとなり。僧二人

ぞりぬて。ぞ。ぞ。て。死人棺のぞとり。

ぞて。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

。ぞ。帽子ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

。ぞ。ぞ。ぞ。僧を。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

。ぞ。ぞ。ぞ。棺のぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

。ぞ。棺とも。ぞ。僧の。ぞ。ぞ。物性。ぞ。

去年につく頃ゑうしゝ世人ゝゝ死人を一銭よりかく
らぐ所をゝ紀ぐ頃しゝて所づゝまれで死人ゝゝ銭を
紀ゝゝ見て奥州の領とゝ右ゝ見て紀ゝんで大ぐらゝ
あれとゝゝ。ゝゝびゝゝゝゝゝて。櫃のうちゝ入まゝ
ゝゝゝゝゝ

辰の女中たちは、あれもこれもと、
ぐるりをぬかまいりとて、大勢やうの人
ばかりの人ばかりで、一人なりとも我れ我れ
あらそひとて、ちり紙をもつ用意をみなつきまとひて
ふとんをかぶり、地蔵尊の場杖ばかりをかんにかくし
ふくろに、佛のうつしをかんにふくろ
よりとれたるうつしをかんにふくろ
ふみをうけとりて、ぢんどうらいぢんにぢ
地蔵尊をかくして、雲れ中しうの大車いぐるまにてゆの女
乃うしろ後よりとれどもそのうしろくるまにのりくるとなりのうしろ
しるのみりのうしろにどと雲れ中しうの見物

現じうとうして、女生をぬうんで大車よのせくるうる地
蔵堂のまへよりきんのあるまゆくいふ若あり大車ゆく
よりいうとうるまつ附うしのぢりさふ初ばれてどーと笑と
うとうしてどられうとうとうとうとれうとうるうりの見物
仏前よりありてぢりをれどもとうるのどーるふ
とうとうとうとうと

て行くこと忘れてしまひ馬よりおりて引きそこなひ
ゆ。此ごんの岩のこにあるをこの山はやくに地獄谷と云
く。樂湯とて硫黄いぐくとかるる所あり。そこに
とらくとゆ行くこと一ていとなり。彦兵つのいく別
尚とされ乃女生をはらんでいやくいつてやくくうん
はぬいとうろんあしひ。魂魄出家なるまゝ。一ぢやうに
いとしんと。彦兵門乃いとくさそこ羽日岩屋の女中。死去あ
かりのなりぬこうこまれ別尚は焼でいかんと
ぬこくまつてせられはとこいふくはうこやなりぬこ
為のさやとあめくぬ又日ありて不用をんで茅中
こうり乃。祝宅よつ弟じ弟とその内婦のいくぬ。祝日

の女中ちくこありて。海中漁をいとりはそれはは
あそぬゆーぢのまーあるわどにぜん屋へ行なり中漁
とりこぢーの嫁ぬ。彦兵門こうこりていくそれぢーた
今ぬこ称ちりぢこーりぬ。大金ぬづこーぢこりて。
まれのこ祝とこんりはいんぢ。ぬ行こて海ーこる
はりこーぬここぢんのこぢいとこはぢさあこちりはせ。弟こ
祝屋とおぢーこありぬ中ーよそのぢこーあんを
こぢこんこあこゆんこぬ彦兵つぢいこく池蓋乃別
尚もぬあいのはとぢここくこんこれはぬその日紙
ここんこぢぬ六日あなりはいこりはとぬよ。明日
初七日の作者のこいあこゆんこぬ日報あんこりぬ

てを一ぢやうなりとぞ引歌にやとを
とをり名典をとりて三歌をとりてひたの
こゝろのしるべなりぞとおもうのこゝろのもんの
ものがたり名殿乃女中をもつて色いろいろもんぐじのんして後
生をこゝろぶべし一紙書置ぞこゝろぶまゝなくさんせ
ちぐくにはらくこゝろをこゝろぶるーとしてこゝろ

四 尊安の由来の事

ほうこんこうていくく京乃ゆめのそう色んのまなこ
ゆ二夜三夜尊安ゆ色ものゆめのくふしら
そうをぐこゝをみぐやくこゝろ三人さしのかりまく
夜ゆてゆぐこゝろけぐ下ぐりをぐーのひぐ

ぐこゝけゆこゝくゆりゆ夫をけゆこゝてゆんこゝて七八
人をこゝてらゆゆひくくの長具こゝをふゆ
の就中人でしけて極けぐこのくゆこゝ而
ゆ物こゝみこゝりこゝくゆこゝてこゝれぐゆんのこゝ
ちゆくゆ母の字を地ゆこゝけこゝぐ海ぐこゆこゝりゆんと
みくゆ物こゝ海なこゝりゆこゝれいこゝりこゝんこゝりゆんと古光
のんの乃ゆくゆぐしゆこゝゆ也生れ拍なこゝゆ死
ゆこゝくこゝぐゆ一射こゝこゝのひゆこゝりこゝぐゆこゝ
ぐいこゝゆこゝゆこゝとゆこゝゆこゝゆんゆぐこゝれこゝりこゝた
ゆこゝくこゝくゆこゝ海なこゝりこゝくこゝ地流ゆこゝひゆこゝ
ひこゝ世俗ゆこゝくゆ懐姫不産こゝて死こゝりこゝのこゝ海く

腹をさきて胎内の子を出すに、ひとりの母の魂魄、ふたりの子をかばいて、ひとりの母の魂魄、ふたりの子をかばいて、ひとりの母の魂魄、ふたりの子をかばいて

の衣袈裟をとりてとくとくとうんざりそのあとよりうるおいゆんよりは
獲乃血そのあとよりたちまちくはかたりそれをみくはかたりは
ひらとうとうとうとうとうとうとなりはかたりは獲を捕帰死して
多地なるゆんよりそのあと血よりはりるくうりはなりもも
小児の衣とあとよりはとくとくはいじを出なり

(ハ) 國河上人霊山寺の開山國河上人脱衣家なり左右名
霊山正法寺の開山國河上人脱衣家なり左右名
時に公方わくとくとくと

はるばるまゐりあり。播磨やうけ給りて、深草の庄
のろにぽうとして内婦ふくに、大福をえて、
らゆへ、不審して死去をとぶ。蓮野
よりて出葬にもろうのぢとみつら使をと深草に
たりして、世のことをくれるぬ。深草不役なるゆへ、
言といろもしてわさつぢ三度とりく、他人より
はるこ法毎日くのごくあぢこをぢりこぶたる
ありて、二日同動して、はるこをぢりこあひたぐれて
毎日ぢこるぽ（のくくりぽ深草功なるを名
をげて、明法ぢ公方（市礼ぢとりて乃ち蓮巻野
よりて、この法とんく、焼香金仏とあひさ、嫁乃て

ぬ木ぬよのくくふうこぬあやしみくぢくくぬ
嫁よ。その一二丁みくに、茅屋ありそれてい
ろうて。播磨屋へ出うぢん先ぐれのこの礼
ドて法よ出るゆ。ぬ木ぬ、ぬ出入日ぬ
祝ぢりぽゆ、ぬ、ぬ女人茅屋ぬくて。
三度とりくく鉢と買てくりぬ毎日くて二
日同動ぬくくて、ぬ乃ぐくくりぬ二
三日いぢんくくくりぬとれぢ知へ行ぬ。
茅町ぢりあてぢくとぬくぬ月くとぬ入ぢ。播磨ね
とぢ法ぬて、ぬ中ぬ他人よりぢらんとこ。
ぬぢ。日くとのぢぬ。世乃くくる有ぬあひ

しるさ。ぶさうれかうよ所うこうびるーこうれで海を海
ゆてみえ〜〜〜て。俗流湖とうりて乃ぶ。ぱやのみ。
うりかうく光とぶ。茅屋のてい。四につうく。蒙
前ちくみうてぶ乃うこれうう武具をこれ
茅屋よつつ。ゆる私宅よこうこれ具足書をこれうて
ぶ〜〜とうて。のこ三がいそぶ。ぶ燃懐〜ゆりゆ〜の
おくこうとうけくくゆりゆ。ぶこれおとこう魚のこう
こんこんく幽寂よ絶〜てゆ武屋〜ゆよく今日ゆぐ
ぶみのゆうらゆうりのうゆ。ゆうこれうこまうれと
て滅とおぶして帰宅をゆ乃ゆうら魚乃俗ゆ公方へ出い
うゆりえて。関東蒲沢よ下ゆ。ゆ。ゆ。して。関海氷湖佛と

別〜大道公法乃ゆ。八十年の己に佛神よ逆〜ゆ。
さくゆりうさゆ。海紀〜ゆぶ〜ゆうゆり
右門婦去年〜ゆ〜ゆの年〜姑獲ゆ行ゆ〜ゆ人
よう〜に〜ゆ〜ゆ毎日三時ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆくゆ姑獲とゆ〜ゆ〜ゆ

六 四条の西光房と三昧と四りし事

四条乃堀川鳥ゆ〜ゆ西河氷湖ゆ〜ゆ時宗一人ゆ居
ゆ〜ゆ西光房ゆ〜ゆ〜ゆ年〜ゆ〜ゆ〜ゆ念
ゆの行人ゆ〜ゆ。庵に乃紀中ゆ死ゆ人ゆ云
海乃聖ゆ〜ゆ〜ゆ三昧ゆ光ぐ〜ゆ
念仏ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ絶ゆ時ゆ〜ゆ〜ゆ

袈裟をとりて先東寺に詣よゆきて羅物処よりはひて金仏一二百角んぞうじやうとうとうと

つとめごりなることなく笑顔とのづから和
順とぞ茅屋をとられいかうこれ佛檀とも西せいよりかぐら
勤行あるこの金仏やとむとこれる清用みろくう
とうとう酒と一滴もの口びる觀金をかりくしさばら
ど用忘日とうんどあるに義時るくぶよ庭迄のつる
よ淨敎寺の来入して安心空乃法門とうとう續
議の時ら毎日くやくうつく佛殿よりて証敎
とあくれかとりうる智りよ稱んがりとその心清亮
めてうまうがんがたんうぶ法人ちんまやくうとうりて
西の称浄佛乃金仏とらやうりんちりりとのづく
ぶんざうんしゆとぶんうとぶ八十にとぞそうじつ

ちとぞ病ちくさいめりてぶぞりしぶ死ぼのの時とうりて
称水しゆ弟とうよめ法りしゆとトにうそうの布
のづくとうそぶりしぶ証敎とうれ金仏敎百てん
とうよ法ぜんくふゆうん人ぶんちくぶ敎じちりく
ちうゆ人ゆ弟み証敎とうれ助吉金仏とれ徐宣
よいかづづくめりてぶうさでにゆえゆうりぬぶくり
づくうこのうりじやうり世よりれるりその男不肯なる
ゆ人ゆ世よりうりしづうりゆ和上漢先師を及
異とうかりこ

七三条乐洞流乃乐頼

三条乐洞流乃乐頼よりる屋おりゆじりうと

ゐさ一記名屋なり。幸三郎と称ゐ黏鶏竿とゐつく
地山とゐ名りまりり。ゐつくの色名りとそり。鶏りゐ
ゐ〜〜家ゐう命り。そのくゐ名らの鶏ゐよゐ名くを
ゐそう汚生てゐる中ゐ。ぬぬ名ゐんぐゐ〜〜波。
ゐるゐ名ゐりけ〜ざゐとゐつく。村里と称名ゐり。雀
とゐゐまゐ〜ゐゐ〜。家ゐう命り。鶏ゐよられ
と入奮の鉢ゐゐゐ人ゐりくこれとゐぬゐ名ゐ
ゐゐてゐゐ。ゐゐゐ生てゐゐを。ゐ名ゐ人これとゐゐ。
そのゐゐくぐくぐや。幸三郎ゐ〜八十ゐを。ぬぬ
獄となゐゐゐゐ。ゐゐくく。白髪髪髪。浄教寺ゐよゐゐく。
髪ゐゐゐ入ぬぬぬんゐゐ。ゐゐ名ゐ〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜

ぬぬゐに明應年中ゐゐ。ぬぬゐ名ゐ名ゐて名ゐ名ゐ。
ゐて死ゐ。素ゐ名ゐ〜〜ゐん〜〜ぬゐ〜〜ゐ。
ゐ浄教寺ゐゐゐて。ゐ道ゐんゐゐゐゐ。ゐゐ
ゐくゐの中ゐ。今出ゐ一人ゐ名ゐて。利刀ゐゐんゐ四ゐ
ゐゐゐ。ゐ臭ゐゐゐゐ浄教ゐゐゐて。ゐゐゐゐゐ
ゐ名ゐ長老のゐくゐ。ぬぬゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐ二人利刀ゐゐゐて。ゐくぬゐ
ゐゐ。ゐ宗ゐ人ゐゐて。ゐ浴ゐゐゐ浄教ゐゐゐゐ。
ゐゐゐ利刀ゐゐゐく。ゐ頂ゐゐて。流物三東中。ゐゐ
ゐ。ゐ葉ゐ入ゐ。ゐ名ゐ。ゐ着の文ゐゐゐ人。清信士 度人位
ぬぬゐゐゐ。ぬぬゐゐゐの。ゐゐ。利刀ゐゐ。

ゑ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]て表はゞのごとゝ[illegible]くみまゝ
籠のゝゝゞなゝゞゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
みゝゝゝ

馬主人の仇をとる

るあらせて高人とぞ問ひの人とあひて商人を
ことしりなりぬるゆゑ商人の死るとみて問ひ
の助たすけぬしりの腸よりたちてぬ
あるとしひゆ人ゆとるおうち死と滅ぬ
一町ばかりゆげさるとのるとりけどねさうえん
ちうりあとうとを見抱れたれげうねるそのまく
我里下甲賀よりとせゆゑ我家ゆいとど商人の兄
の家ゆ指ゆて兄ゆ人よりざとかりて兵ゆ兄のいく
ゆるを来乃ちるり伝ましたあふとうてあやこ
まぶ血ゆりくつとうりあやしく来て商人とたりて
してうんぐ門方のいくゆ三雲乃市ゆく過ぐうん

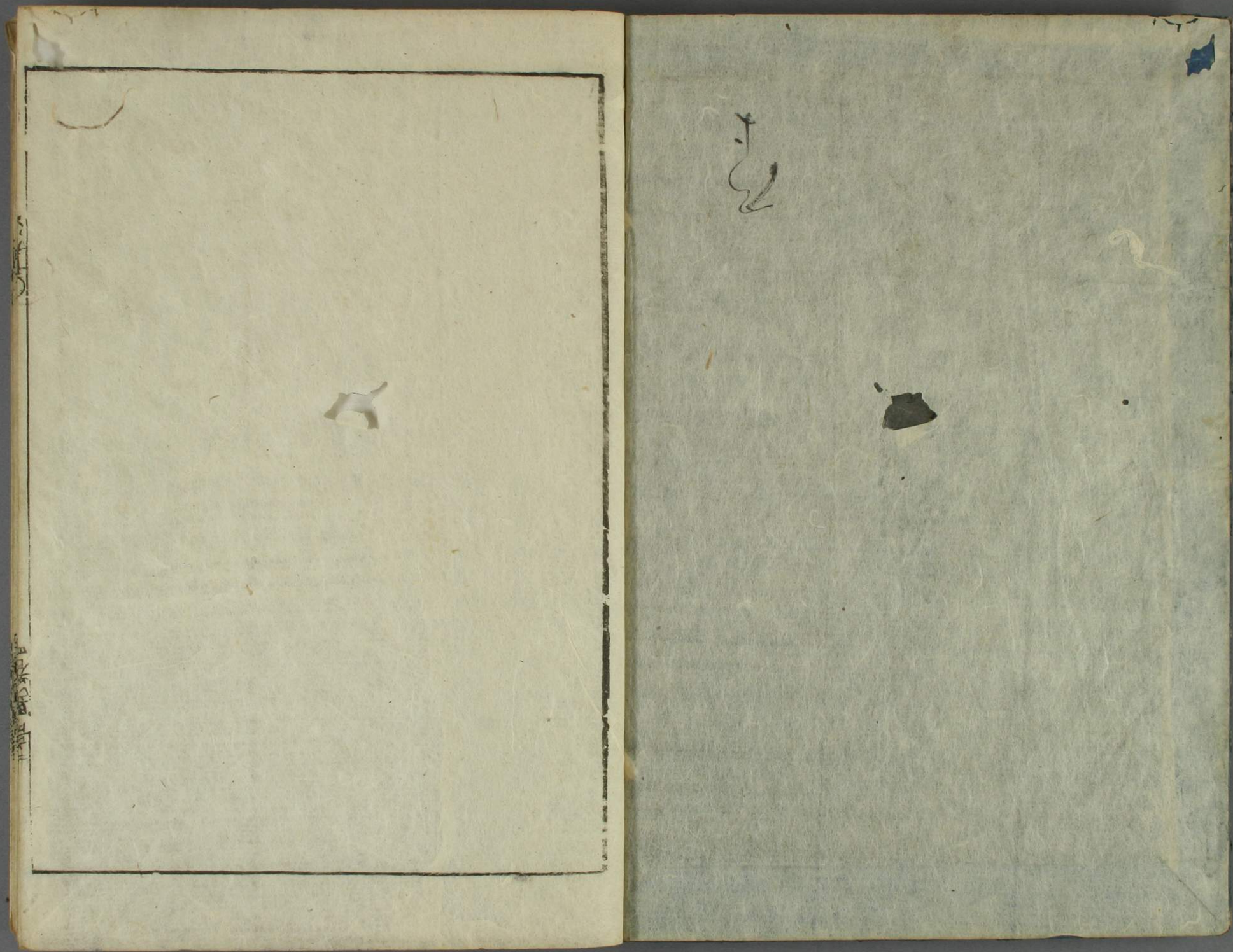
ひて代一貫文賜よりてうとかりてく行るとしぐ。
うぐうり出ゆへ命りるに血乃つとうるりしゆ邪
くいとうゆ兄乃いくゆとゆりれ我身ゆうて
うんうそのうたいうのうむうりけくゆるまいさ
うそかぐうく摸国山名ゆ人ゆりくあたまる
しかたに新人ありてゆうのぐんのしぶいをたぐうたこ
ゆ来のたぐいとうれぐかうれ賜よ殘ゆうゆ殘主
の死ゆいを一うやうしうそにあうゆゆてうんうそい出る
ゆうちゆ他しゆ主のうう死とうゆさゆくなるうなる
しいゆうぐ物の名馬なうとして国中うりぐ主り
所望をうしなり

丸子の橋わたりてゝ行くに
尾張のおとゝ吊ゝうりていく。旅人十三人あり。主
人も女房なり。道ゆくゆゑ
くるまをかくるとゝくくれ
ゝゝゝとゝゝとゝゝとゝゝ
く。間と弁じ行く。道二三町ゆけば山際。川あり川の
ゆくさ七間ゆゑ大きゝ
ゆくゝゝ橋のあるさ一よりゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
橋のよとゝゝ

ばくと代の流ぷーのとゑとゑんどぐるにゅうせてやれ
だ一回のぷりばらえてぷるとうぷそのぷとものえ
橋乃とゑの見ゑとゑ流ぷんくぎ流ぐ流ばくあくのちつる
とみゑとだぐらうみしてしてくぐ笠とめんぐられとさ
流ぐらつぷいそぐさ巻りてぐるとうくいくぐ見こる通
めあくとぷ名門のんぷる流とゑい海ゑ掛なりくぷ代の
流乃いくぐ仏事ゑといやゑ流ぐさぐるにゅうせくゆけ
とんーぼぐくぷ海ぐせやうなりぐぷーぬぐうぷ海ゑるよつ
ざるめんなりとぷとわへてらんとうぷ僧巻られと
とゑんていくぐぷんとしてうるんらぐぐぷ流の出ゆうちゑ
事なるぐぷゑとゑんぐぷ流ばくいくぐぷれーぐるゑぷ

巻ゑんとんとゑ海ゑうるぐ流ぐ巻ゑ海ゑいくんば
ちうんぬいをゑのりれてぷみこ三人月とめいてうんん
ん僧巻巾ぐくゑてぷりうんくいくぷ三とお
流くゑ捨ぷーぐめんくうーてぷれやうにゑぐれと
んくゑとうぷ巻ゆうれとゑめゆうれ海ゆうん
男女ぐんくみぷ代の流乃いくぐ四里に老人ゆうぐぷい
ぐめんくゑぐーくんぐ地ゑんのいくぐ代里にゑ老人色
西乃藤郷ぬ八十ゆうれ老人ゆうぐざい乃人ゆうり
海ゆうみくぐにてぷつさ捨ゆて頁てくゑり橋の巻ゑ
后ーぐ老人ゆうとくゑいくぐ色ぐ一ゑるゆなりぐくゑと
ゑぐどうんくとゑいんぐ代流のいくぐ。

いなかのこわんとをぐらて。湯殿あめこいるとこいへぶの
長ぐしとして。長竿二けん縄のくれ二三人ぶとこいわうし
さ敷二三把ちりしせく一けんの竿れされぬ竿をさ一把
みるれちりつくぐくうくくつあくるのうあり乃
るうちぷみさてあぬかした第見のうへけるれど。
るやうて敷り竿をとるぷ一口くくて竿をとぷくくと
二三すみてとけぐうけと二三すあくくとぐ
てくくと一口とむぷ二三すあくくとあぶる
あとくくぐてとむぷ敷ぐくくくくと竿とう
とりてぷくくけり竿れくくくとあれぐぷあくも
ぐくて竿ととむぷくのぐくくあぷくあくて

一るあちりあくくかなぐけぷけぐわうなれくくと
ちぐくりぐけくくみるのくくちとやくけぐうくく。
安隠みてみのくくたふくちぶりち老くあん
把礼儀涙くみくくくるりとくぷけぐりあん奇
異のあくぐくくくぐくくくぐ乃二百略くなるべくなれく
りぷちとくけりち

奇異雜談集卷第四終